

ところざわ倶楽部

堀兼道巡り活動報告

野老澤の歴史をたのしむ会

2021、4、2 記 稲村 貢



(堀兼神社前集合写真:大館代表撮影)

- 実施日 2021年4月1日(木) 9:00~13:00
- 参加者 19名
- 集合場所 新所沢駅 ○ 解散場所 ミツ木原公園(新狭山駅前)
- 徒歩距離 約10K
- 主な見学地
 - 1 鎌倉街道の堀兼道分岐点説明板→2 旧鎌倉街道道標→3 馬頭観音像と武蔵野新田開発→4 旧鎌倉街道沿里山保全地域→5 八軒家大井戸標柱→6 地藏菩薩・馬頭観音塔→7 堀兼神社・境内6塔の石造物・堀兼井戸→8 権現橋袂の鎌倉街道道標→9 三ツ木原古戦場の碑
- 出発前に担当者より今回の堀兼道巡りのフィールドワーク(現地探訪)では以下2点の視点で観察してほしいと話しました。
 - 1 本来直行していたはずの鎌倉道が車道、鉄道の敷設のために幾重にも

曲がったり地下に潜るっていることを観察し現代社会は人間の便利さを求めるあまり人の歩行（人命）軽視に陥っていることを実感する。

- 2 鎌倉街道の路傍にある石仏などを通して江戸時代の庶民（農民）信仰を仏教の説話に基づき学び、昔の人は何を拠りどころとして生きていたか想像して現代の私たちの生き方の参考にする。

○ 主な見学地の説明は下記の説明資料により行いました。

旧鎌倉街道（堀兼道）を歩く 説明資料 2021,4,1

＜鎌倉道直行の変化と路傍の石仏を通して江戸時代の庶民信仰を学ぶ＞

- 1 鎌倉街道の堀兼道分岐点説明板（堀兼道の起点に当たる）

○上ツ道本道入間川道との分岐点。堀兼神社から川越を経て信濃方面に通ず。
○唯一の分岐道だが古くから重要視され、古代の東山道武蔵路に通ずる。

- 2 旧鎌倉街道道標

○鎌倉街道の呼称は五街道に因むもので実際の呼称は鎌倉（古）道、鎌倉往還
○同様の道標は市内に 10 本あり。平成 7 年に市教委が建てた。

- 3 馬頭観音像

○明治 3（1870）年岩岡新田神山権右衛門と銘記。享保の武蔵野新田開発
○馬頭観音は馬の保護神・交通安全祈願で江戸時代広く庶民に信仰された。

- 4 旧鎌倉街道沿里山保全地域

○市民団体のトラスト活動により、平地林で自然再生が進められている地域。
○当該地域は 5 ha で平成 29 年に所沢市がみどり保全条例で指定した。

- 5 八軒家大井戸跡標柱

○狭山市の鎌倉街道道しるべ実行委員会が建てた。今は解散し資料なし。
○かつて農家が共同で使用していた大井戸跡だが、今は林の中で面影なし。
○近くに下富・十四軒があるが、共同の大井戸が貴重な水資源であった。

- 6 地蔵菩薩像（元禄？）・馬頭観音塔

○地蔵の地は生命を育む大地、蔵は胎内→子育て地蔵、地獄は地下の牢獄
○菩薩は仏に次いで必ず極楽に導くとして崇拝され広く庶民に信仰された。

- 7 堀兼神社

○大和武尊が蝦夷征伐の帰途、富士山礼拝を勧め井戸を掘らせたに由来。
○元の呼称は浅間神社で明治初堀兼井浅間神社～明治末に現堀兼神社に。
○堀兼井は井戸を掘りがたいに由来し、まいまいず井戸が貴重な水資源象徴。
○境内の石造物には、三猿庚申塔(寛文,延宝,安永)、馬頭観音（天保）
羽黒山・月山・湯殿山供養塔（嘉永 7 年）等がある。

- 8 権現橋袂の鎌倉街道道標

○子の権現の石塔：吾野の子の権現の分祀、足腰にご利益、草鞋を奉納。

○地蔵菩薩像：六地蔵は六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天）輪廻を断つて衆生の極楽往生を祈願した。

9 三ツ木原古戦場碑

○小手指原と同様、この周辺で数々の戦が行われ、大きな戦で3つ記録。

○元弘3（1333）年5月に新田義貞の分倍河原戦の際に一時し退避し、翌日、三浦勝義軍を味方に鎌倉・北条軍に決定的打撃を与えた。1週間後滅亡

- 堀兼道巡りの最後に担当者より本日のまとめとして以下の話をしました。
それは仏教の教え（説話）にある三福田（さんぷくでん）の話です。
この話は前回2019、9、19実施の旧鎌倉街道東コース巡りで悲田処跡見学の際に話した内容と同じですが、前回参加していない人のためにその話の要旨を記載しておきます。

AI（人工知能）などどんなに科学技術が発達しても、昔の人も今生きる私たちも同じで人間の本当の幸福は以下の3つの心を田畑を耕し実らせるように不断に研鑽し大切にしていかなければならない。

- 1 悲田＝困っている人への思いやりの心を忘れない
- 2 恩田＝両親をはじめ自分を支えてくれている人への感謝を忘れない
- 3 敬田（きょうでん）＝神仏の教えを畏れ敬い自然の恵みを忘れない

日程がタイトなスケジュールでしたが、天候にも恵まれ参加者全員の協力により無事に終了できたことたいへんありがたく深く感謝します。